

下関リハビリテーション病院 季刊誌

# オレンジ

地域に寄り添い、地域と共に

Shimonoseki Rehabilitation Hospital



赤間神宮の絵馬

基本理念 手には技術、頭には知識、患者様には愛を

## CONTENTS

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| 2P 院長 新年あいさつ            | 6P 日本脊髄障害医学会 参加 |
| 3P 認知症のお話し              | 6P 藤岡久子様紹介      |
| 4P 特別講演会 野瀬病院 林本部長      | 7P 家族教室         |
| 4P 院内勉強会                | 8P 医療連携室より      |
| 5P 日本神経理学療法学会学術集会 参加    | 8P アクセス         |
| 5P 特別講演会 関門医療センター 栗山Dr. |                 |



# 新年のご挨拶



院長 林 研二

明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

昨年4月1日、当院は開院45周年を迎えました。地域のみなさまと共に盛大にお祝いし、仲間と共に今後の発展を祈念できたことを心より感謝申し上げます。カマチグループの発祥の地がここ下関リハビリテーション病院であることを再認識し、みんなで当院を守り、さらに発展させるという意志を共有できたことは、本当に意義深いことでした。

また、昨年、仲間みんなで一一致協力し、「病院機能評価」の審査に合格することができました。

その結果、組織としての基本的な枠組みが構築され、組織全体が足並みをそろえて前進する体制が整いました。

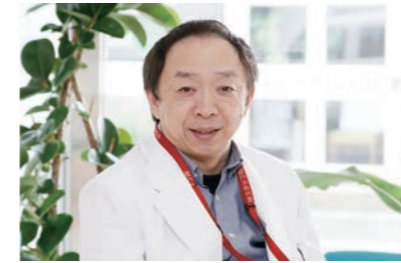
本年は、当院の基本的な目標である「地域密着型病院」に、「地域に寄り添い、地域と共に」という我々の心持ちを付け加え、職員一同努力する所存です。

本年も、昨年同様、宜しくご指導、ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。



## 認知症のお話し

### その『認知症患者を理解する』



副院長 小川 浩一  
(専門分野：脳神経外科・脊髄脊椎外科)

認知症は、「なった本人は何もわからないからいいが、その家族が大変だ」と、以前私は思っていました。しかし本当にそうでしょうか。認知症になってしまった人は苦しくないのでしょうか、悲しくないのでしょうか。認知症は感情も奪ってしまうのでしょうか。答えは「ノー」です。最近になって、

若年性認知症の人たちが、自分の記憶や認知機能がおかしくなっていく状態や気持ちを、自分の言葉で語るようになり、「本人は何もわからない」とされていた認知症の常識が、根底からくつがえされたのです。一度、渡辺謙主演の映画「明日の記憶」を見てみてください。非常に参考になります。

### 認知症の代表的な症状である「物忘れ」と「見当識障害」について



認知症による物忘れがある程度進んだ人は、自分が行った行為自体を覚えていません。例えば、朝ごはんの内容が思い出せないのではなく、朝ごはんを食べた行為自体を忘れていたため、ヒントを出しても思い出せません。そして自分が物忘れしたことも覚えていません。しかし、周りの人達は覚えているので、ますます心配になり、ほらまた忘れた、その話はさっきも言ったでしょ、何度言ったらわかるの、いつも忘れるんだから、などとそのたびに厳しく指摘してしまいます。極端な例ですが、もしあなたが、「昨日万引きしたでしょ」などと、身に覚えのないことで責められたらどうでしょうか。認知症による物忘れが進んだ人は、これと同じで「身に覚えのない事で責められている」と感じているのです。その落胆ぶりを想像してみてください。

見当識とは、時間、場所、人を認識する能力のことで、簡単に言



えば、「今はいつ?」「ここはどこ?」、「あなたは誰?」を理解する能力のことです。私たちは、今日は何時にどこで誰と会ったといったことを無意識に記憶しながら生きています。認知症になると、この能力が失われるため、今がいつで、ここがどこで、目の前にいる人が誰かわからなくなるのです。入院などで急に周囲の環境が変わった時に最もよくみられる光景です。ではこの時、認知症の人の心の中はどうなっているのでしょうか。もしもあなたが何らかの事情で、気を失っているうちに知らない場所に運ばれてしまったらどうでしょうか。目覚めた時、今が何月何日で、夜なのか昼なのか、日本なのか外国なのか、周囲にいる人が味方なのか敵なのか、全くわからないとしたら?ものすごく不安になって、逃げ出そうとした



り、大声をあげたり、震えたりするのではないのでしょうか。見当識障害に陥った認知症の人たちは、まさにそのような不安の真っ只中にいるのです。一番苦しいのは認知症になった人自身なのです。認知症になっても喜び、悲しみ、怒りなどの感情は最後まで残ります。これらの激しい感情とともに、何気ない一言で心は徐々に傷ついていくのです。「さっき言った」というのは質問に答える気はないという事であり、相手を拒絶している言葉です。自分は繰り返し言ったことを忘れていたため、なぜそんなことを言われるのかわかりません。しかし、自分が拒絶されたことはわかります。「ちょっと待って」や「後にして」などの言葉もそうです。まずは介護する側が、これらの言葉が拒絶の意味を持ち、相手を傷つけている可能性があることを知っておくべきでしょう。

【参考文献】佐藤真一 認知症の人の心の中はどうなっているのか (光文社新書)  
佐藤真一 認知症 「不可解な行動」には理由がある (SB 新書)

### 特別講演会「逃げない・諦めない・とことん話す～馬鹿正直な組織改革～」を開催しました



医療法人社団 十善会 野瀬病院  
法人本部長 林 政徳 先生

今回の講演会は兵庫県にある医療法人社団 十善会 野瀬病院の林法人本部長にお願い致しました。野瀬病院は科捜研の女などのドラマのロケ地で使われることもあるそうです。

講演のテーマは「逃げない・諦めない・とことん話す馬鹿正直な組織

改革」です。林本部長は医療業界だけではなく銀行、ホテル、技術開発会社などの経験があり、医療人の目線だけでなく違った目線で見る方です。私と林本部長は学会等で何度もお会いしており、講演会を依頼したところ快く引き受けていただきました。

林本部長曰く『自分のことはさておき、人の幸せだけを考えて生きてきたら、自分が幸せになってしまった』とのことで、十善会の6つのコンセプトをはじめ、多岐にわたってお話をいただきました。

今後組織作りをしていく上で「とにかく

く職員と、とことん話すことが大事」、「職員一人一人が主役」という視点を大切にしていこうと改めて決意致しました。

今後、働き方改革で組織改革が出来るよう病院全体で業務改善を目指します。

副院長 兼 事務長 石田 憲司

#### 6つのコンセプト

1. 困ったときの野瀬さん
2. 地域の安心と安全を担う野瀬さん
3. 使い勝手のいい野瀬さん
4. 地域の人が集える場の野瀬さん
5. 医療機関らしくない野瀬さん
6. 医療者・患者・地域すべて平等



### 『第17回 日本神経理学療法学会学術集会』に参加して



今回、パシフィコ横浜で開催された第17回日本神経理学療法学会学術集会にて「備品短下肢装具とオーダーメイド短下肢装具におけるパフォーマンスの比較」というテーマで発表しました。

結果としては、仮説の通りオーダーメイドの方が備品よりもパ

フォーマンスが良かったという結果でした。

ポスター形式での発表を行いました。口述発表よりも資料の準備がなかなか大変でした。しかし、ポスター発表後もその場に残り、様々な病院の理学療法士と有意義な意見交換が行えました。

学会としては「神経リハビリテーションの



リハビリテーション科  
理学療法室 副主任 辻野 光基

一歩先へ」というテーマで、再生医療やロボットなど最新の知見の発表がありました。当院としてもこれまで、最新の知見を取り入れつつエビデンスの高いリハを提供してきたため、今後も同様に活動していきたいと思えます。

### 院内勉強会『嚥下のメカニズムと誤嚥性肺炎について』



令和元年10月13日、24日の2日間で嚥下に関する勉強会を実施しました。嚥下障害のある患者様でミキサー食を食べている方、誤嚥防止の為に水分にトロミを付けている方は多くいらっしゃいます。ミキサー食は形が無いので何を食べているか分からず、満足度は低く食欲は湧きません。トロミ付の水分もドロ



ドロして美味しくありません。また、嚥下障害のある患者様は筋力や耐久性の低下により、姿勢が崩れた状態で食事をされている方がいらっしゃいます。姿勢が崩れた状態では、非常に飲み込み難く誤嚥の危険性が高まります。

勉強会では職員に、姿勢が崩れた状態でミキサー食やトロミ付水分を



試食してもらいました。実際に経験することで、改めて嚥下障害のある患者様のお気持ちを察する機会となりました。また、姿勢が崩れた状態では飲み込み難いことも実感できたと思います。今回の経験を職員一同、日々の仕事に活かしていければと思います。

リハビリテーション科  
言語聴覚室  
副主任 大畑 智志



### 特別講演会「大腿骨近位部骨折について」に参加して



関門医療センター  
整形外科 栗山 龍太郎 先生

今回、高齢者に頻発する大腿骨近位部骨折について関門医療センター医師の栗山龍太郎先生と医療ソーシャルワーカーの大羽智也先生の講演会に参加させていただきました。現在我が国の超高齢社会において大腿骨近位部骨折は2.2秒に1人

の頻度で発生しているとのこと、発生頻度の高さに驚きました。主な要因としては転倒が多いですが、その背景として加齢に伴う骨粗鬆症の要因が少なくないとのこと。

私たち回復期・生活期リハビリテーション病院としては、骨折部の癒合や治療過程に合わせた機能・能力の向上を図り、受傷前のADL・QOLの再獲得をすることを目標として治療をさせていただいています。ただ、骨折の要因として骨粗鬆症に注目して考えると、リハビリテーションに関わる私たちの役割の中には、転倒予防に加えて骨粗鬆症に対する予防的治療も求められると思えます。



関門医療センター  
医療ソーシャルワーカー 大羽 智也 先生

介護予防や地域リハビリテーションが目指される中で、私たちの患者様に対する関わり方を見直すきっかけとなり、大変充実した貴重な時間となりました。



リハビリテーション科  
理学療法士 松江 准哉

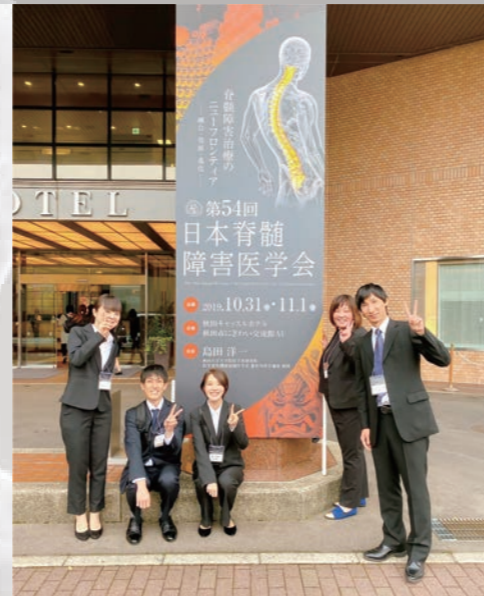
### 『第54回 日本脊髄障害医学会』に参加して

今回、秋田県で開催された第54回日本脊髄障害医学会に参加させて頂きました。当院からは、私と理学療法士他2名の合計3名が発表しました。

学会テーマは「脊髄障害治療のニューフロンティア融合・発展・進化」であり、総演題数 365 演題、口演 160 演題、ポスター 167 演題

でありました。今回の特別講演やランチンセミナーでは、脊髄再生医療実施に向けたリハビリテーション医療など多くの再生医療についての講演を聞くことが出来ました。

発表では、他病院の医師やコメディカルと積極的に意見交換することができ、大変有意義な時間となりました。



また、本学術集会を通じて新たなエビデンスを得る事ができ、今後の臨床に役立てていきたいと思いました。

来年も脊椎メンバーで発表出来るように頑張っていきたいと思います。

リハビリテーション科  
理学療法室  
副主任 藤井 牧人



現在、当院の通所リハビリをご利用中の藤岡久子様をご紹介します。



担当の柿並です

### 藤岡久子様をご紹介します

**柿並** 3ヶ月で一作品の課題を出しました。完成した絵は、いきいき健康館に飾らせて頂きました。

**藤岡様** タイトルは「初夏」です。8月の作品です。自宅で1日2時間程度、主に土日に描きました。1ヶ月で完成させました。

#### 藤岡様にインタビュー

**当院に入院中、リハビリは大変でしたか？**

私はつくづく感じませんでした。なぜかと言うと「動かなかった人が杖をついて歩いて帰った(退院した)」と聞き『絶対自分もそうなる、必ず笑顔で帰る!』と決めて頑張りました。そしてそれが叶いました!

**通所リハビリを利用されていかがですか？**

やはり気持ちが晴れます。月曜日と木曜日の2回利用しています。スタッフや周りの方とお互いに声を掛け合って励みになります。

リハビリで絵を描き、それを飾ってもらうことでリハビリをする皆さんの励みになればと思います。

藤岡様は「日美絵画展」で入賞経験があり、院内ロビーにも入賞作品を寄贈して頂きました。



作品名「初夏」

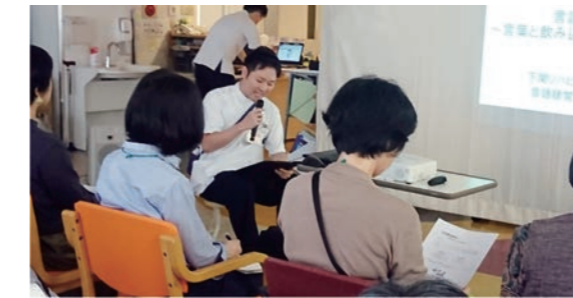
当院に左半身麻痺改善のため入院し、リハビリに励む。退院後、訪問リハビリを経て通所リハビリに移行。現在も一人暮らしをされ自立した生活を送られている。

病気をする前は、ご自宅で生徒さんを集め絵手紙の先生をされていました。絵画が好きで、ご自身も絵を習われ常に絵の勉強をされていました。

※掲載内容は藤岡様にご了承を得ています。

### 家族教室

#### 10/12 開催 『言語聴覚法 (言葉・飲み込みの障害について)』



#### 参加者の声

- むせた時の対応等を教えて頂いたので良かった。説明がわかりやすかった。
- 実際に聞きづらい場合など、こちらの対応に気づかされる点があった。
- 家族が発症するまで全く知識がなかったので、詳しく資料もわかりやすかった。

10月12日に言語聴覚療法をテーマとして家族教室を実施させて頂きました。具体的には、食べることの困難さが出現する「嚥下障害」、ことばの障害である「構音障害」「失語症」について説明を行いました。

参加者の方々からの質問では、約7割が嚥下障害に関するものであり、生

活に密接に関わる食事は関心が高いのだと改めて感じました。「食」という漢字は「人に良い」と書き、心身の健康を支える上で食べることは重要だと研究からも明らかとなっています。長く美味しく食べるためには「虫歯の予防」と「誤嚥性肺炎予防」が重要です。食後の歯磨き、栄養のある食事、運動、

睡眠をしっかり行うことで予防ができますので、ぜひとも取り組んでいただきたいと思います。

リハビリテーション科  
言語聴覚士 野村 忠臣



#### 参加者の声

- 認知症はぼやっとしか分からなかったのですが、今日のお話で少しわかりました。
- 認知症の人の対応の仕方について理解出来た。
- 夫が物忘れがひどいため心配だったが、認知症ではなかったので安心した。
- もう少し優しい気持ちになる事が大切だと理解できました。

に寄与するという報告もあります。今後は、こういった予防活動も、ますます需要が高まってくるでしょう。多くのニーズに対応できるように、準備をしていく必要があると感じています。

リハビリテーション科  
作業療法室  
副主任 仲村 康樹



野菜や果物を多く摂る人は、幸福感を得られやすく、ポジティブな心持ちで日々を暮らすことが、認知症予防

今年度の家族教室は全て終了しました。次回は、2020年4月～11月に毎月開催する予定です。



## 医療連携室より



不安を安心へ、サポートしていきます。

事務でのサポートを頑張ります。

丁寧な対応と気配りを心がけます。

みんなで笑顔あふれる毎日に！

← 上段向かって右から

医療ソーシャルワーカー 係長  
中板 留美

医療ソーシャルワーカー 副主任  
重村 愛美

医療連携室事務  
有光 麻衣

退院支援看護師  
曾根 弘子

← 下段向かって右から

退院支援看護師  
佐藤 睦子

看護師  
松岡 久子

副院長 兼 医療連携室室長  
林 きよみ

看護師長  
西口 紀子

何でも相談して下さい。

今年も御紹介頂いた患者さんの所にご挨拶に伺います。宜しくお願い致します。

今年もよろしくお願い致します。

気軽に声をかけて下さい。

## 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

上段向かって左から →

医療ソーシャルワーカー 副主任  
島崎 昇平

医療ソーシャルワーカー  
竹田 佳代

医療ソーシャルワーカー  
北村 恭平

下段向かって左から →

医療ソーシャルワーカー 主任  
上野 純子

医療ソーシャルワーカー  
坪井 美桜

医療ソーシャルワーカー  
恩塚 智光

医療ソーシャルワーカー  
重住 千聖

笑顔で仕事を頑張ります。

笑顔で頑張ります。

笑顔と誠心誠意で対応します。

情熱・寛容・柔軟

気持ちに寄り添った対応をします。

万里一空

皆様と関わる時間を大切にします。

表紙の写真 📷 赤間神宮にお参りに行きました。ちょうど絵馬が飾られた日だったので撮影しました。絵馬の大きさに感動しました。



一般社団法人 巨樹の会

## 下関リハビリテーション病院

〒750-0064 山口県下関市今浦町9番6号

TEL:083-232-5811

FAX:083-232-0219

URL:http://www.shimoreha.jp

Mail:info@shimoreha.jp

### アクセス方法

●JR 下関駅より徒歩5分

●サンデン交通竹崎バス停より徒歩1分

